

# **. 分担研究報告**

教育用パンフレット「知っていますか？男性のからだのこと、女性のからだのこと」  
に対する大学生の意識調査

研究分担者 吉川 弘明（金沢大学保健管理センター）

研究協力者 足立 由美（金沢大学保健管理センター）

平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究」(研究代表者:山縣然太郎)で作成された教育用パンフレット「知っていますか？男性のからだのこと、女性のからだのこと」に対する大学生の評価をアンケート調査を行い、分析した。有効回答数は 101 名、内訳は男性 43 名(42.6%)、女性 58 名(57.4%)であった。その結果、パンフレットは大学生にとって重要な内容を扱っており、見やすさでも高い評価を得られた。性的な内容については重要であるが、他者と話し合うのに抵抗があると考えられるため、授業で扱ってほしいという要望があることが示された。今後、このパンフレットを使い、どのような教育活動ができるか、実証が必要となる。

## A. 研究目的

社会における大学の役割は時代とともに変遷し、昨今はキャリア教育に重点を置かれる傾向にある。しかし、大学には生涯にわたるライフプランを考え、心身の健康を育むための教育過程の最終拠点としての役割も期待される。特に少子化が進む我が国の将来を見据え長期的な展望のもと、家族を単位としたコミュニティの健全な育成は喫緊の課題である。これまで、キャリアプランと並べてライフプランを取り上げる機会は少なかった。この研究は近い将来、親となる若い男女に、結婚、出産をライフプランの中の重要項目として位置づけさせるために、大学生の心身の健康に関する意識調査をして、その結果を教育に生かすための実践的研究活動である。

本研究は大学における一般教養としての健康教育実践の評価と方法論を検討する一連の取り組みの発展的研究である。1990 年頃から全国の大学において保健管理センターが健康

教育を実施するようになってきた。その内容は「家庭の医学」のような一般社会人を対象としたものよりも、ややレベルの高いものを目指し、それぞれの教員の専門性を生かした内容であったが、予防医学的な視点がかかり取り入れられている(「学生と健康」 国立大学等保健管理施設協議会 編集、株式会社 南江堂 1996 年発行)。その後、それぞれの大学の実情に合わせた健康教育が推進された。また、「学生と健康」は 2001 年に改訂第 2 版が、2011 年には「新版 学生と健康 -若者のためのヘルスリテラシー-」が発刊されている。金沢大学独自の取り組みとしては、2007 年より 4 年間にわたり実施された「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援 GP)」の「心と体の育成による成長支援プログラム -社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成-」により、食育や地域社会との連携の過程で心と体の両面から学生を成長させる教育プログラムが開発された。これらのプログラムは現在、共通教育特設プログラム「健康・自己管

理」(正課教育)と学生支援プログラム(正課外教育)に引き継がれている。一方、我々は平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究」(研究代表者:山縣然太郎)の一員として「大学における女子学生の健康に関する実態と対策に関する研究」を行った(同班 平成 24 年度 統括・分担研究報告書 平成 25 年 3 月)。この事業で教育用パンフレット「知っていますか?男性のからだのこと、女性のからだのこと」が、大学生の教材として作成され、本学では平成 26 年度前期に開講される導入教育科目「大学社会生活論」の一部「健康論」の資料として配布する予定である。

## B. 研究方法

平成 25 年度に金沢大学では、若い男女のライフプランに関する意識調査のデータ収集と、平成 24 年度山縣班研究で作成された教育用パンフレット「知っていますか?男性のからだのこと、女性のからだのこと」の評価を行った。

### 1. 研究対象者

金沢大学の共通教育の講義の中で、「心と体の健康」、「ストレス臨床心理学」、「メンタルトレーニング」を受講した学生を対象とし、男性 60 名、女性 60 名を目標に協力を依頼した。

### 2. 調査内容

若い男女のライフプランに関する意識調査のデータ収集については、岐阜大学が作成した調査用紙を用いた(以下、「アンケート 1」とする)。教育用パンフレット「知っていますか?男性のからだのこと、女性のからだのこと」の評価については、金沢大学で作成した調査用紙を用いた(以下、「アンケート 2」とする)。

## 3. 調査方法

上述の講義終了時にアンケート 1 と、パンフレット「知っていますか?男性のからだのこと、女性のからだのこと」と、アンケート 2 を配布し、回答手順を説明した上で記入を求めた。なお、今回の調査では、アンケートに答えた学生が聴講していた講義内容はパンフレットの内容とは関係のないものであった。アンケート 2 は、パンフレットを通読後記入するように指示した。金沢大学で回収したアンケート 1 は研究代表者が所属する岐阜大学保健管理センターに研究分担者が郵送し、研究代表者が Microsoft Excel に入力した。金沢大学ではアンケート 2 の評価のため、アンケート 1 も匿名でデータを連結し、入力を行った。

### (倫理面への配慮)

調査に際しては金沢大学医学倫理審査委員会の審査を経て、実施した。なお、データの扱いは名前等が特定できる個人情報は含まれていない。また、協力を希望しない学生に対して、授業等で不利益が生じないように配慮した。

## 4. 統計解析

SPSS Ver. 19 (日本 IBM) により解析を行った。

## C. 研究結果

### 1. 研究対象者の内訳

回収部数は 125 部であった。アンケート 1 (若い男女のライフプランに関する意識調査)の有効回答数は 121、アンケート 2(「知っていますか?男性のからだのこと、女性のからだのこと」)の有効回答数は 101 であった。アンケート 2 回答者の内訳は男性 43 名(42.6%)、女性 58 名(57.4%)であった。所属別では、人文社会系 53.4%、理科系 12.9%、医療系 33.7%

であった。

## 2. アンケート2の集計結果

パンフレットに関する評価は10項目について「1 全くあてはまらない」から「7 非常にあてはまる」までの7件法でたずねた(図1~10)。「5 ややあてはまる」「6 あてはまる」「7 非常にあてはまる」を合計すると、パンフレットの内容については「興味をもてる」が67.7%、「重要である」が89.0%、と高い評価を受けた。パンフレットの出来については「大きさは適切である」が66.0%、「厚さ(ページ数)は適切である」が75.0%、「字の大きさは読みやすい」が83.0%、「見やすい・読みやすい」は80.0%であった。具体的な改善案として、「内容に、大学での取り組み、相談の受付の情報を入れる。」「サイズを半分にする。ページ数は増えてもいいと思う。」「少し大きすぎると思った。悩んだ時のTEL先を入れる。」「図をきれいにすると良いと思う。」などの自由記載があった。

パンフレットを「自分が持っておきたい」は56.0%であったが、「友人(男性)に紹介したい」は32.0%、「友人(女性)に紹介したい」は34.0%に低下した。「交際相手に紹介したい」は42.0%であった。

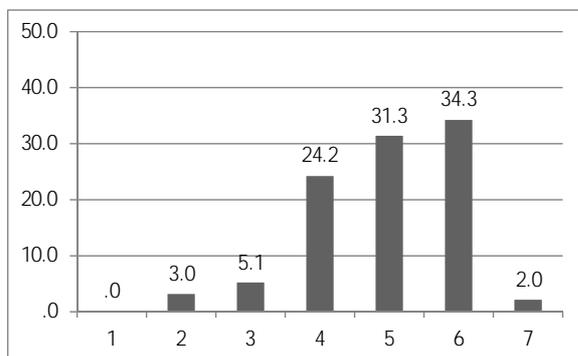


図1 「パンフレットの内容は興味を持てる」

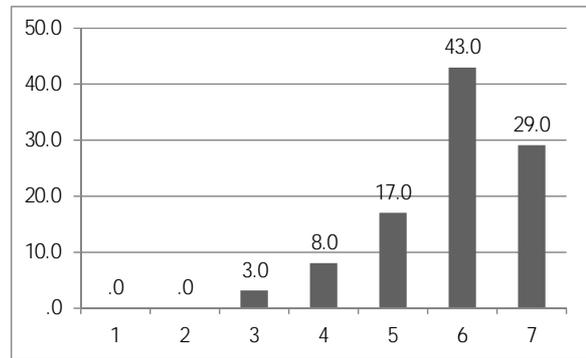


図2 「パンフレットの内容は重要である」

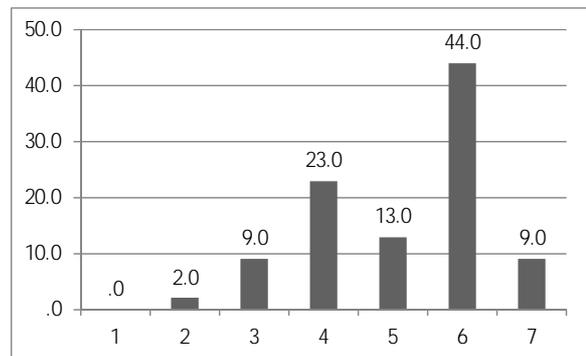


図3 「パンフレットの大きさは適切である」

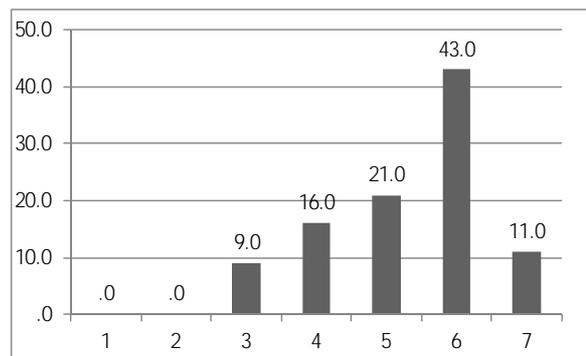


図4 「パンフレットの厚さ(ページ数)は適切である」

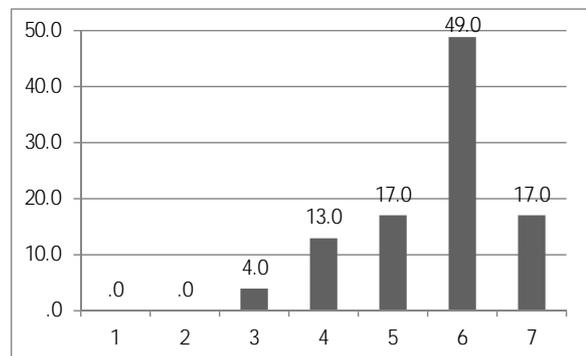


図5 「パンフレットの字の大きさは読みやすい」

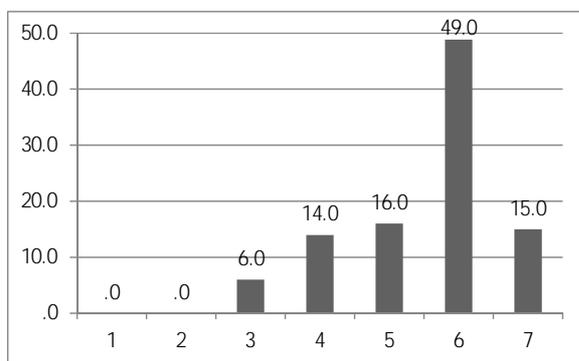


図6 「パンフレットは見やすい・読みやすい」

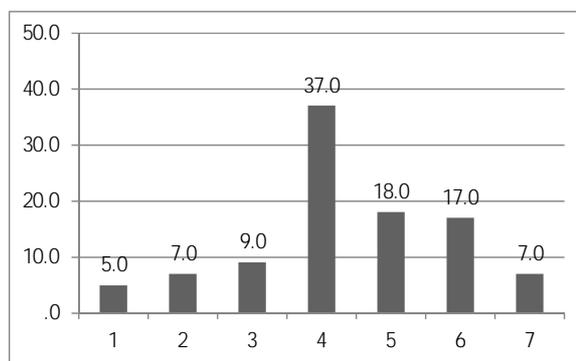


図10 「パンフレットを交際相手に紹介したい」

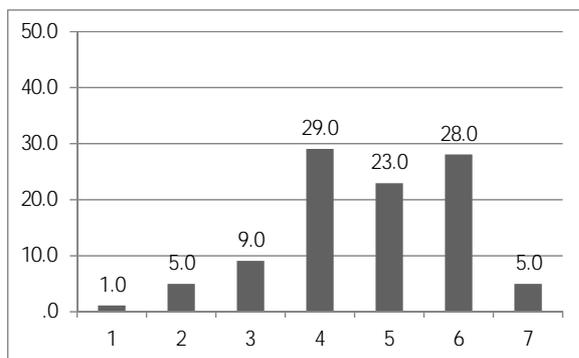


図7 「パンフレットを持っておきたい」

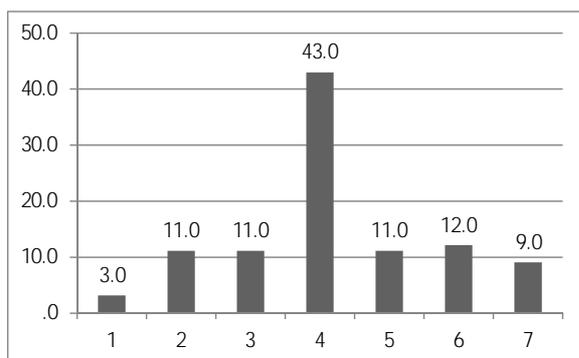


図8 「パンフレットを友人(男性)に紹介したい」

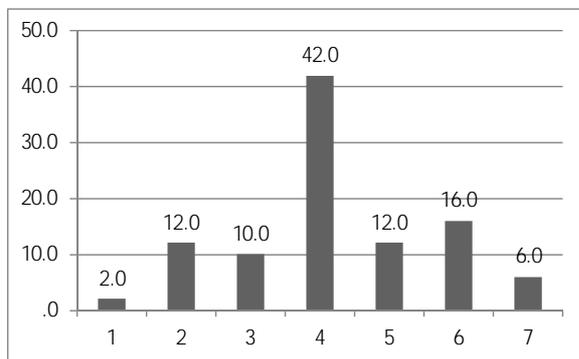


図9 「パンフレットを友人(女性)に紹介したい」

(図1~10: 図中の回答数(縦軸)はパーセント(%)で示す。横軸は回答7件法の選択番号を示す。1;全くあてはまらない、2; ;あてはまらない、3;ややあてはまらない、4;どちらともいえない、5;ややあてはまる、7;あてはまる、7;非常にあてはまる)

パンフレットに必要と思う内容、および、必要ないと思う内容については、12項目について複数回答可で回答を求めた。まず、図11に示したように、パンフレットの内容で必要ないと感じた内容は少ないことがわかった。必要と思う内容として最も回答が多かったのは「妊娠について」で55.4%、次に「性感染症について」の53.5%、次に「避妊について」の52.5%であった。

パンフレットを宣伝するのに効果的な方法については、図12に示したように、「授業で配布する」が62.4%で最も回答が多かった。

### 3. アンケート1の基本属性を用いたアンケート2の検定結果

パンフレットに関する評価10項目について、性別でt検定を行ったが、評価に性差は見られなかった。所属別で一元配置分散分析を行った結果、「友人(女性)に紹介したい」に有意差が見られ、理科系より医療系の学生のほうに得点が有意に高かった( $F_{(2,97)} = 4.680, p <$

0.05)。

パンフレットに必要と思う内容について、性別で<sup>2</sup>検定を行った結果、「健康で充実した人生のために( $\chi^2_{(1)}=6.404, p<0.05$ )」と「男性に多い性の悩み( $\chi^2_{(1)}=10.268, p<0.01$ )」に性差があり、ともに男性で必要と回答した人が有意に多かった。

#### D. 考察

平成 25 年度はアンケート 2 の分析を中心に行った。若い男女に、結婚、出産をライフプランの中の重要項目として位置づけさせる目的で作成された教育用パンフレット「知っていますか？男性のからだのこと、女性のからだのこと」は、今回の調査で、大学生が興味をもてる、重要な内容を扱っており、見やすさでも高い評価を得たと考えられる。性的な内容については重要であるが、他者と話し合うのに抵抗があると考えられるため、大学生にとって授業で扱ってほしい内容であることも示唆された。

#### E. 結論

教育用パンフレット「知っていますか？男性のからだのこと、女性のからだのこと」には、我が国の未来を担う大学生にとって必要な情報含まれており、大学生にも有用な資料として評価された。今後、このパンフレットを使い、どのような教育活動ができるか、実証が必要となる。また、それを踏まえ、より有用な教育用パンフレットとなるよう改訂をすすめていきたい。

#### 【参考文献】

- 1) 「ライフプランを考えた男女のための健康パンフレット」平成 24 年度厚生労

働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究」班

#### F. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表

- 1) 吉川弘明、山本眞由美、足立由美、山縣然太郎：「妊娠出産の視点からの大学生の健康支援の必要性 - 全国大学保健管理施設の調査 - 」第 72 回日本公衆衛生学会総会 於 三重県総合文化センター 2013.10.23~25
- 2) Mayumi Yamamoto, Hiroaki Yoshikawa, Yumi Adachi, Aki Kanoh, Yuki Isomura, Tadahiro Sado, Akihiro Nishio : "Promotion for Japanese University Students to Consider Life Planning: Career Life and Family Life." 2013 the 29th International Congress of the Medical Women's International Association, Ewha Womans University, Seoul, Korea, July 31 August 3, 2013.

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

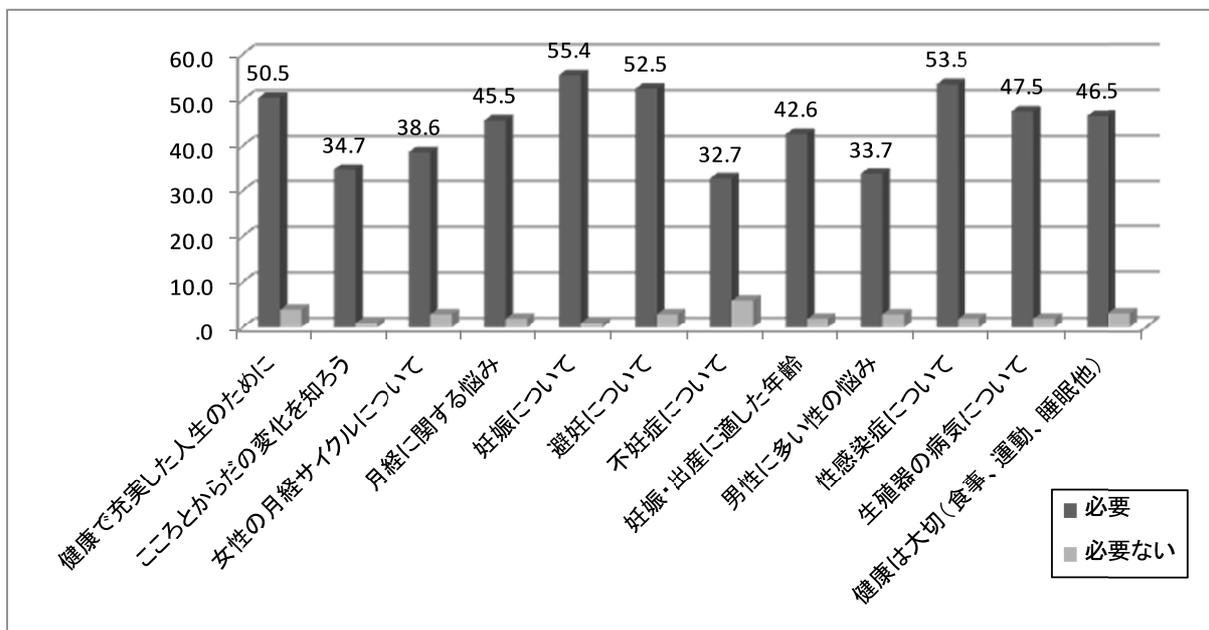


図 11 パンフレットに必要 / 必要ない内容（複数回答可）（縦軸は%を示す）

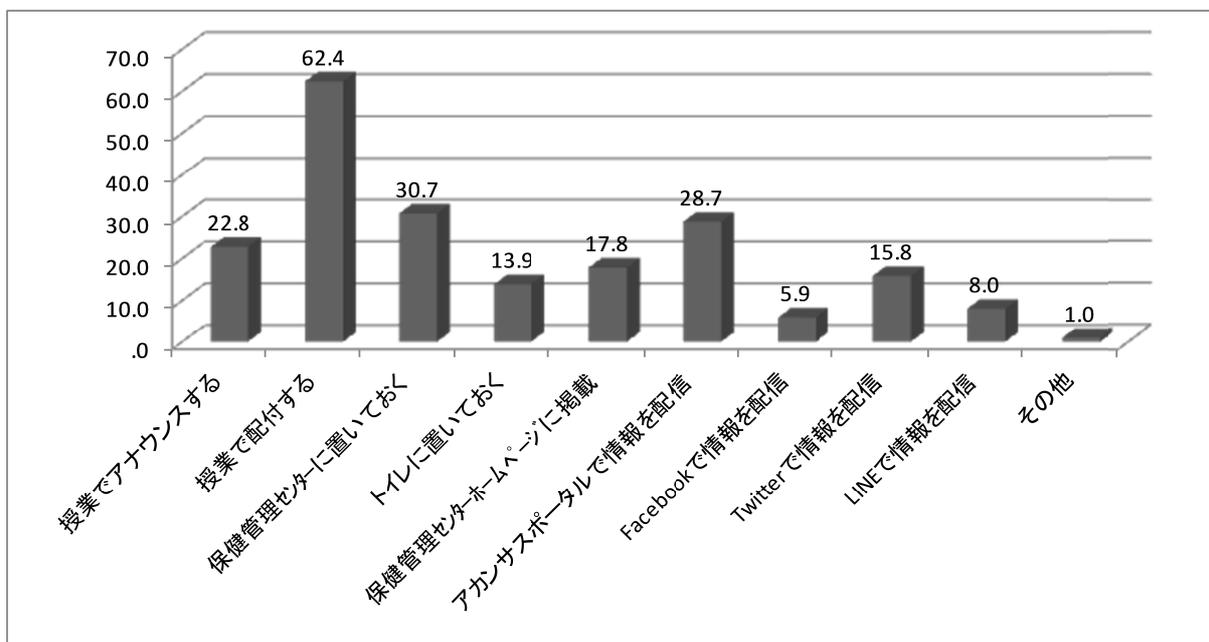


図 12 パンフレットを宣伝するのに効果的な方法（複数回答可）（縦軸は%を示す）